



欧州中央銀行（ECB）総裁・副総裁 の交代とその候補者

コンスタンシオ副総裁の後任としてスペインのデギンドス経済相が内定、2018年6月1日就任。ドラギ総裁の任期は、2019年10月で、後任が誰になるか？

バイトマン・ドイツ連銀総裁は有力候補ではあるが、他の候補者名もとりだたされている。

ドイツは、メルケル首相が欧州委員長になることで、ECB 総裁のポストは他国から選出するというわさまで出ている。

一覧表

欧州中央銀行（ECB）理事会メンバー

欧州の国際機関・国際金融機関等の代表・総裁

金融商品取引業者：ブライツ・アセット株式会社
登録番号：関東財務局長（金商）第 3102 号
加入協会：一般社団法人第二種金融商品取引業協会（予定）
一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
HP : www.brightasset.co.jp

2019/02/15

欧州中央銀行（ECB）総裁・副総裁の交代とその候補者

ECBの金融政策

金融政策を決定する権限を有する ECB の最高意思決定機関は政策理事会です。役員会メンバー6名とユーロ圏の中央銀行総裁 19名から構成されています（合計 25名）。

ECB の金融政策は、政策委員会（ECB 理事：6名、ユーロ圏各国中銀総裁：2016年5月13日現在 19名）の単純多数決で決定されます（現在は輪番制）。同数の場合、総裁が決定権を有することになっています。

このメンバーで実質的にユーロ圏の金融政策とユーロ為替市場の動向が決まります。

※4ページの欧州中央銀行（ECB）理事会メンバーを参照のこと

※ユーロ圏と非ユーロ圏の中央銀行との協力の場として、非ユーロ圏の各国中央銀行総裁（28名）から構成される一般理事会も存在します（合計 30名）。

過去 ECB 発足以降、ECB の総裁は、オランダ（ウィム・ドイセンベルグ）、フランス（ジャン・クロード・トリシェ）、イタリア（マリオ・ドラギ）と引き継がれています。

ECB 総裁は多数決？

ECB 総裁は EU 加盟国 27 か国の過半数の賛成によって決定されますが、実際にはユーロ加盟国 19 か国によって決められます。また、一か国一票とは言いつつも、ドイツ、フランスとスロベニアが同じ一票の重みを持つものではありません。各国の政府、元首間の駆け引きがあり、政治的に決定されるものです。総裁ポストを手に入れるためには、何らかの代償（経済政策、貿易交渉・産業政策など）を払うこともあるようです。表には出てきませんが、各国首脳と一部の高級閣僚の間で話し合いが行われるとされており、後になって舞台裏が明かされることもあります。選任のプロセスは、ユーロ圏財務相会合、EU 経済・財務相理事会で ECB 総裁指名が勧告され、欧州議会で承認、EU 首脳会議で任命という手順となっています。

ECB 総裁・副総裁の交代とその候補

2018年、2019年の2年のうちに ECB の正・副総裁職を含む EU の複数の要職が、交替時期を迎えます（ECB 総裁は 2019年10月、副総裁は 2018年5月）。ドラギ ECB 総裁の後任は、2019年年初まで発表されないとされていますが、既に次期総裁をめぐり候補者名が取りだされ始めています。

過去 ECB 発足以来総裁を出していないドイツが主要ポストを確保したいと望んでいると言われています。ただし、ドイツは既に欧州投資銀行（EIB；ワーナー・ホイヤー）、単一破綻処理委員会（SRB；エルケ・ケーニヒ）および欧州安定メカニズム（ESM；クラウス・レニング）の総裁職を確保しています。こうした中で主要国間の交渉は前倒しで始まることもあり得るでしょう。

ドイツ連銀のバイトマン総裁（ECB 理事）の ECB 総裁への立候補が有力とされているもの、フランスおよびその他複数の国が反対した場合には、中央銀行関係者以外からの選出も考えられます。ドイツは総裁ポストをあきらめる代わりにスペインからの総裁候補を推すとの推測報道もあります。欧州議会では女性の登用を望む声があるようです。一方、独立した機関である ECB に政府の上級閣僚が加わることを懸念する理事会メンバーも一部いるようです。ECB の約 20 年の歴史の中で、財務担当閣僚が理事会メンバーに直接就任した例はありません。高名なエコノミストとして世界の中銀関係者に

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライト・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。

知られていながら、学界で活躍する外部者を候補として検討することもあります。その候補として有望視されるのは、世界の資金の流れやマクロ経済の安定等についての論文が高い評価を得ているロンドン・ビジネス・スクールのエレーヌ・レイ教授（経済学）です。レイ教授は、女性であることが有利に働く一方で、フランス人であることが立候補を複雑なものとする可能性があり得ます。他に、ビルロワドガロー仏中銀総裁も市場では総裁候補として受け止められています。また、レイ教授と同じフランス人女性のクリスティーヌ・ラガルド国際通貨基金（IMF）専務理事も候補になりえます。また、アイルランド中銀のドンナリー副総裁も総裁もしくは理事会メンバーの候補として名前が挙がっています。フランス人のいずれかが選ばれる場合、市場への影響は総じてプラスだと思われる。また、ドイツ人以外の総裁ならば、少なくとも当初のうちは、タカ派色が薄いと市場が受け止める可能性が高くなるでしょう。

また、現状役員会に籍を有していないスペインのデギンドス経済相やリンデ・スペイン中銀総裁を副総裁に押したいとするスペインの意向があったようです。レーン・アイルランド中銀行総裁も副総裁候補として名前が挙がっていました。ユーロ発足時からのメンバーで唯一出身者を理事会に送り込んだことがないアイルランドは、恐らく今回の機会を見送り、将来のチャンスを探ることになるとの観測もありました。

次期 ECB 副総裁内定

こうしたなか 2018年2月19日のユーログループ（ユーロ圏財務省会合）は副総裁の後任としてスペインのデギンドス経済相を選定しました。このあと、3月22、23日の欧州連合（EU）首脳会議で最終決定され、6月1日に就任する予定です。

一方、フランスの推しているとされていたもう一人の副総裁候補であったアイルランドのレーン中銀総裁は、ユーロ圏財相会合の前に、アイルランドは擁立を取り下げました。レーン総裁は、来年任期切れとなるプラート ECB 専務理事の後任というわけもあるようです。

2月8日にスペインのデギンドス経済相は、ECBの金融政策は現在の欧州の景気回復に後れを取っているとの見解を示しました。また、ECBの政策金利が過去最低水準にあるためにユーロ圏で資産バブルが起きているとは思わないとも述べています。こうした発言から、若干タカ派という見方がすでに市場では出ているようです。

副総裁が欧州の南の国から選出されたことを受け、次期総裁はバランス的に北出身者になるのではとの観測が出ています。しかしながら、現状では、ドラギ総裁はイタリア出身であり、コンスタンシオ副総裁はポルトガル出身でした。二人とも南側です。

2/19/2018 ロイターによると、ドイツはこれまで一度も総裁を出していませんが、既に執行部にはラウテンシュレーガー理事を送っています。ラウテンシュレーガー氏の任期は2022年までであり、ECB理事会にわずか2人しかいない女性メンバーであるだけに、他に空席が生じた際に女性が新たに就任するまでは、無理やり辞めさせる選択肢は受け入れ難いと伝えています。

そこでドイツは、他の欧州北部諸国からの次期総裁候補を支持する道を好ましいと考えるかもしれません。特に後押しするのは、資産買い入れなど金融危機対応モードの政策を積極的に巻き戻そうとする候補者ならドイツとしては支持しやすいでしょう。

ユーロ圏経済は理論的に考えれば、そうした陣容入れ替えに対応できるのは間違いありません。欧州委員会は3月、今年と来年の成長率をそれぞれ2.3%、2%と予想し、労働市場は改善が続くとの見方を示しました。それでも ECB 総裁がドラギ氏からより正統的な金融政策を掲げる人物に交代し、デギンドス氏が副総裁として支える態勢になれば、新たな危機に見舞われた場合、ECB 首脳部は創造的の思考が欠けた状況に置かれてしまう可能性を危惧する声も出始めています。

2/20/2018のFAZ^{※注1}に面白い記事が掲載されていました。内容は、もしバイトマン・ドイツ連銀総裁がECB総裁に選ばれたとしたら、ドイツの主張している厳格な財政政策や、金融機関に対しての厳しい対応について、ドイツ出身のECB総裁がECB（つまり欧州の総意として）から煮え湯を飲まされるのではないかと問いかけていました。南の国々への救済金は結局ドイツが支払うことになることを、ドイツ人は一番嫌がっているようです。

2/20/2018の南ドイツ新聞^{※注2}では、総裁候補はバイトマン・ドイツ連銀総裁（元メルケル首相の経済アドバイザー）であることには違いないが、これまでのECBの政策（ゼロ金利+債券購入）には反対してきた。彼の信条（ドイツの意向でもある）を貫きながら、ハト派が多い現状の多数派といかに対応していくことができるか問題となるだろう。しかし彼にその能力はあるだろう。他候補としてフランスのデガノー仏中銀総裁とオランダのノット蘭中銀総裁の名前が挙がっているが、過去トリシェ総裁やドүйセンベルグECB総裁を出したこともあり、過去ドイツ人が選ばれていないことからバイトマン総裁が有力である。と伝えています。

他方、次期総裁選びは2019年春に行われる欧州議会選挙も含めた政治的なパッケージで選定されることになるとの報道もあります。欧州委員会と欧州評議会のトップを誰にするのか？その性別、出身国がブリュッセルでは問題となります。中央銀行は政治とは独立しているべきであるが、過去のECB総裁は各国財務相出身者であったこともあります。いろいろな要職の人事が絡んでくることであり、バイトマン氏にすんなりと決定することは難しいと思われます。

2018/3/1ロイターによると、フランスのルメール財務相は、欧州中央銀行（ECB）の次期総裁人事について、副総裁がスペインから選ばれたからといってユーロ圏北部の国から選出されるとは限らないとの考えを示しました。フランスが候補者を出すのかとの質問には、駆け引きをするのはまだ早いと言及を避けました。

2019年2月11日、ユーロ圏財務相は5月末に任期を迎えるプラート欧州中央銀行（ECB）専務理事兼チーフ・エコノミストの後任にアイルランド中銀のフィリップ・レーン総裁（49）を指名しました。3月に開催される欧州連合（EU）首脳会談で正式に承認され、6月1日に就任する見通し。任期は8年。レーン氏は2015年からアイルランド中銀総裁を務める。ハト派的で、ドラギECB総裁に近い考えとみられている。

次期ECB総裁が決まるのは、まだまだ時間がかかりそうです。

※注1 FAZ：Frankfurter Allgemeine Zeitung ドイツを代表する高級紙。ECBやドイツ連邦銀行（ブンデス・バンク）が所在するヘッセン州フランクフルト・アム・マイン本社。中道右派系。移民や宗教問題について保守的な姿勢。

※注2 南ドイツ新聞：南部ドイツを代表する高級紙。発行部数はドイツ最大で約38万部。バイエルン州ミュンヘン本社。左派リベラル。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライト・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。

欧州中央銀行（ECB）理事会メンバー

役職	氏名	任期	前職	政策スタンス
総裁	マリオ・ドラギ	2019年10月31日	イタリア中央銀行総裁	ハト
副総裁	ルイス・デギンドス	2026年5月31日	スペイン経済大臣	ハト（中道）
専務理事	ブノワ・クーレ	2019年12月31日	フランス財務省国庫総局次長	ハトから中道へ
	サビーヌ・ラウテンシュレーガー	2022年1月26日	ドイツ連邦銀行副総裁	タカ
	イブ・メルシュ	2020年12月14日	ルクセンブルグ中央銀行総裁	タカ
	ピーター・ブラート フィリップ・レーン (チーフ・エコノミスト)	2019年5月31日 2027年5月31日	ベルギー中央銀行理事 アイルランド中銀総裁	ハト ハト
他主要メンバー	バイトマン	(2019年4月)	ドイツ連邦銀行総裁	タカ
	クノット		オランダ中銀総裁	タカ
	エフルド・ノボトニー		オーストリア中銀総裁	中道（タカ）

※政策スタンスのハト派；穏健派、景気の見方は慎重、景気重視、金融緩和を志向、とされます。

※政策スタンスのタカ派；強硬派、景気の見方は強気、嫌インフレ、金融引締めを志向、とされます。

参照) <https://www.ecb.europa.eu/ecb/orga/decisions/eb/html/index.en.html>

ECB 次期総裁をめぐる報道

バイトマン氏：ドラギ ECB 総裁の後任受け入れの姿勢示唆 – 独フンケ

欧州中央銀行（ECB）政策委員会メンバーのバイトマン・ドイツ連邦銀行総裁は19日にドイツ各紙などに掲載される独フンケ・メディアングループとのインタビューで、ドラギ ECB 総裁の後任について、受け入れる姿勢を示した。同氏は次期 ECB 総裁を望んでいるとこれまでで最も強く示唆したことになる。

バイトマン氏は「私は ECB 政策委員会の全てのメンバーが異なる役割で金融政策に貢献する意欲を持つべきだと信じている」と述べた。

同氏はまた、資産購入を早期に終了すべきだとあらためて主張。投資家が ECB の資産購入が今年末以降行われないと予想していることについて、ユーロ圏経済が著しく良好に推移しているため、「私は非常に妥当なことだと思う」と語った。

（ブルームバーグ、2018年5月19日より）

ECB リイカネン氏：ドラギ総裁の後任を目指す活動しない

フィンランド銀行（中央銀行）のリーカネン総裁は19日、欧州中央銀行（ECB）のドラギ総裁の後任となることを検討する状況はあるかもしれないが、自らその職を求める活動は行わないと述べた。リーカネン総裁（67）はフィンランドのYLE TV1とのインタビューで2019年の後半に空席となる ECB 総裁職への就任要請に応じることは可能かと問われた際、こうした議論はいつもあまりに早く始まると指摘。「私はどんな職でも自ら求めて運動するつもりはない」と述べ、「『職務を果たすか』と尋ねられる状況はあるかもしれない。その後に検討する必要がある」と語った。

同氏は7月に1期7年の2期目の満了に伴ってフィンランド中銀総裁を退任する。後任にはレーン副総裁が18日に指名された。金融政策スタンスについてタカ派姿勢を弱めたかどうかとの質問にリーカネン総裁は、物価安定に関する自身の立場は「全く不変だ」と述べ、「インフレが当局の目標とする2%を超える水準に加速すれば、利上げを要求する。その水準をかなり下回ったままであれば、景気を刺激する必要がある。私のスタンスは目標を上回っているか下回っているかにかかわらず対称的だ」と答えた。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライト・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。

リカネン氏がタカ派姿勢を弱めれば、一段とタカ派姿勢のワイトマン独連銀総裁の対抗馬として次期 ECB 総裁候補になる可能性もある。

(ブルームバーグ、2018年5月21日より)

ワイトマン独連銀総裁、ECB次期総裁に適さず＝伊与党幹部

イタリアの与党「同盟」幹部で下院予算委員長のクラウディオ・ボルギ氏は19日、ドイツ連邦銀行（中央銀行）のワイトマン総裁が欧州中央銀行（ECB）の次期総裁となることに反対する考えを示し、ワイトマン氏の ECB 総裁就任は欧州の分裂につながりかねないと警告した。

イタリア出身のドラギ現 ECB 総裁は2019年10月に8年の任期を終えて退任する。

ドイツは ECB 創設から20年で初となるドイツ出身の ECB 総裁を誕生させるべく、意欲を燃やしているとされる。ワイトマン氏は ECB 総裁候補に正式に名前が挙がっているわけではないが、最有力との見方が多い。

ボルギ氏はロイターの電話取材に対し、ECB 次期総裁について「ワイトマン氏はイタリアにとって良い選択ではない」と指摘。「ワイトマン氏のタカ派的な見解は抑制的な金融・財政政策を意味し、欧州の分裂につながりかねない。対照的に、ドラギ現総裁の下での EU 国債買い入れ（量的緩和策）はユーロ圏を結束させた」と述べた。

ワイトマン氏は ECB の超緩和的金融政策に否定的な見解を示しているほか、債務削減が進まないイタリアを批判することもあった。

ECB 総裁決定にあたり、イタリアは拒否権を持たないが、ECB 総裁は伝統的に欧州主要国が賛成した候補が就任してきたため、イタリアの反対は大きな障害となる。

イタリアはドラギ総裁の退任後も ECB における影響力を保持するため、他の ECB 高官ポストへのイタリア出身者の就任を模索している。ボルギ氏はこれについて「具体的な名前は挙げない。イタリア政府は自国の利益を重視する有能な人物が ECB 高官ポストに推挙されるよう努める」と語った。

(ロイター、2018年7月20日より)

次期 ECB 総裁、ワイトマン氏の可能性後退との見方広がる

ドイツ連銀のワイトマン総裁が次期欧州中央銀行（ECB）総裁に就く可能性が後退したとの見方が広がっている。金融政策のかじ取り役を自国から送り出すことよりも貿易問題への対応にドイツが関心を寄せているもようだ。

独経済紙のハンデルスブラットによると、メルケル首相は、来年中にもトップが交代する欧州委員会委員長と ECB 総裁について、ドイツ出身者が獲得できる可能性としては欧州委員長ポストの方が高いと認識し、優先的に働き掛けを行っているという。

メルケル氏は23日、記者会見で次期 ECB 総裁候補について何も決めていないと説明。欧州議会選挙とともに人選を巡る話し合いがようやく緒に就くところで、総裁ポスト決定は相当先になると見通した。状況の進展を見守り、その上でドイツの立場がどうなるかを見極める考えを示した。

欧州委員長は、ドイツにとって死活的に重要な欧州連合（EU）の通商政策を主導するポストとされる。

対照的に、ECB はすでに異例の金融刺激策解除の意向を示している。次期総裁は景気指標を参考に出口政策を管理するだけで、一段と精力的に政策を打ち出す機会が得られない恐れもある。

ワイトマン氏は23日、ECB 総裁ポストについて言及しなかったが、緩和策の縮小推進を呼び掛けた。

ドイツ連銀や同国政府の報道官は、ハンデルスブラット紙の報道についてコメントを控えた。

(ロイター、2018年8月23日より)

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライト・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。

オーストリア、ECB理事会のポスト獲得を目指す＝財務相

オーストリアのレーガー財務相は、同国が欧州中央銀行（ECB）理事会メンバーのポスト獲得を目指す方針であると明かした。

2019年10月31日に任期満了を迎えるドラギ総裁をはじめ、来年には理事会メンバーの半数に当たる3人が退任する見込み。

レーガー氏の事務所が6日発表したコメントによると、「オーストリアは欧州に対するより大きな責任を負う準備がある。特にECBにおいて、われわれ自身が理事会のポストに就き、より積極的に関与することを望んでいる」とした。

また「単一監督メカニズム（SSM）」のような「銀行監督においても、より大きな責任を引き受けることを考えている」とした。SSMのヌイ委員長は今年末で退任する予定。

レーガー氏はオーストリア人の候補者を明らかにしなかったが、適任者には心当たりがあるとした。

（ロイター、2018年9月7日より）

独が狙う欧州委員長の座 EU人事レースで思惑交錯

欧州連合（EU）で首脳が来年、一斉に任期満了を迎えるのを控え、後任をめぐる人事レースが始まった。ドイツは行政執行機関トップにあたる欧州委員長のポストを狙って動き出した。首脳人事は今後のEUの方向性にも影響を及ぼすため、重要だ。EU内の影響力確保を目指す加盟国の利害も絡むだけに、その先行きは混沌（こんとん）としている。

（ベルリン 宮下日出男）

任期満了となるのは欧州委員会を率いるユンケル欧州委員長（2019年10月末）のほか、政治レベルの最高協議機関、EU首脳会議の議長役のトゥスク大統領（同11月末）、19年5月に選挙が行われる欧州議会のタヤーニ議長。これにユーロ圏の金融政策を決める欧州中央銀行（ECB）のドラギ総裁（同10月末）も加わる。

EU外交の「顔」となったモグリーニ外交安全保障上級代表も欧州委の体制刷新とともに退任の意向を示唆したとされる。人事をめぐる交渉では欧州の南北や東西といった地域や党派間のバランスなどが配慮されるため、各国の駆け引きも複雑だ。

独の“心変わり”

最初に動きを見せたのはドイツ。欧州議会最大会派の中道右派「欧州人民党」代表で、ドイツ出身のマンフレット・ウェーバー議員（46）が5日、「欧州を人々の手に取り戻す」として、議会選に向けた同会派の欧州委員長候補に名乗りを上げた。

欧州委員長人事は、EU首脳会議が議会選の結果を「考慮」して提案した候補を欧州議会に諮（はか）る仕組みで、最大会派の候補となれば有利だ。欧州議会の会派は政策などをともにする各加盟国の政党が集まり、構成されている。ドイツのメルケル首相はすかさず、自身の保守系与党に属するウェーバー氏の立候補を「歓迎する」と表明した。

これまでドイツは自国出身者が就いたことのないECB総裁を目指していたとされる。だが、独メディアによると、メルケル氏は最近、ユーロ圏などのEU改革、通商や移民政策など広範な政策に影響力を持つ欧州委員長の獲得を最優先する方針に転換したという。

幾重ものハードル

ただ、ドイツ出身の欧州委員長の誕生にはいくつもハードルがある。人民党は11月に委員長候補を決めるが、英国のEU離脱交渉を担うフランス出身のバルニエ首席交渉官（67）、フィンランドのストゥブ元首相（50）らの名前も取り沙汰される。影響力を持つメルケル氏の後押しは大きな支えとはいえ、ウェーバー氏はまずここを制しなければならない。

人民党の委員長候補の座を射止めても、まだ油断は禁物だ。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライト・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。

前回2014年の欧州議会選では、人民党と第2会派の中道左派「社会民主進歩同盟」で過半数の議席を占めたため、欧州委員長を人民党のウンケル氏が、議長を進歩同盟が占める“取引”が成立した。だが、今回は反移民などを掲げる極右などEU懐疑派勢力も躍進し、2大会派の過半数獲得は困難視もされる。その場合、ウェーバー氏が選ばれるかは不透明となる。

EU両輪の仏は？

ドイツとEUの両輪をなすフランスのマクロン大統領は、欧州委員長の人選は必ずしも議会選の結果に縛られないとし、EU首脳会議の裁量を重視する立場。昨年の仏大統領選で独自に立ち上げた政党「共和国前進」は欧州議会に確固とした基盤がないため、人選への影響力を確保したいとの思惑も垣間見える。

ドイツが欧州委員長ポストを得れば、1967年以来となる。

一方で、近年はEU内でドイツの存在感が突出。トランプ米大統領は「EUはドイツの道具」になっていると批判した。大きな権限を持つEUの“顔”の一つを握れば、そうした印象をいっそう強めることにもなりかねない。

トランプ米政権による一国主義的な動きや中国とロシアの台頭を受け、ルールに基づく多国間主義の国際秩序維持を目指すEUでは近年、日本を重視する姿勢が高まり、日本にとっても重要なパートナーだ。その主要人事の行方は日本にも人ごとではない。

(産経新聞 2018/9/25より)

欧州いす取り、バイトマン氏にも望み－欧州委員長はメルケル氏自身も

ドイツ連邦銀行のバイトマン総裁が次期欧州中央銀行（ECB）総裁になる芽は、まだある。

欧州連合（EU）内のトップポストを巡る政治的駆け引きはまだ始まったばかりで、メルケル独首相は選択肢を残している。従って、次期ECB総裁候補としてバイトマン氏の名前が消えたわけではない。

欧州委員長ポストの行方が鍵になる。ドイツが両方のポストを独占することはできないからだ。次期欧州委員長には独連立与党の一角を占めるキリスト教社会同盟（CSU）メンバー、マンフレッド・ウェーバー氏が名乗りを上げたが、メルケル首相は全面的な支持は表明していない。ウェーバー氏が最強の候補ではないかもしれないと、独政権が懸念していることがうかがわれる。

ウェーバー氏が欧州委員長にならないなら、バイトマン氏はECB次期総裁候補として復活できると、事情に詳しい関係者が匿名を条件に述べた。両ポストの人事を決定しなければならない2019年10月までにはまだ時間がある。

ドイツにとっての奥の手は、メルケル氏自身が欧州委員長になるというものだ。同氏はそのような臆測を却下したと伝えられているが、適任だという声定期的に上がってきている。ポピュリスト政党の台頭や対米貿易摩擦、英国の離脱など問題山積のEUに重みを与え世界から認められるためにはよい人事かもしれない。

(ブルームバーグ、2018/9/13より)

ECB次期総裁、就任考えたこともない＝エストニア中銀総裁

欧州中央銀行（ECB）理事会メンバーのハンソン・エストニア中銀総裁は、2019年10月に任期満了を迎えるドラギECB総裁の後任に就くことは検討していないと述べた。南ドイツ新聞の取材に答えた。

記事によると、ハンソン氏は「ドラギ総裁の後任になることは、ほんの少しでも考えたことがない」と述べた。

ECBの資産買入れプログラムについては、成功を収めたと宣言するのは時期尚早だとする一方、最近の動向は「励みになる」との見方を示した。

(ロイター 2018/10/1より)

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライツ・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。

ECBの銀行監督部門トップ人事、接戦の様相＝関係筋

複数の関係筋によると、欧州中央銀行（ECB）の銀行監督部門「単一監督メカニズム」のトップの座を巡る争いが接戦の様相を呈している。

これまで、アイルランド中銀のシャロン・ドナリー副総裁が有力とみられていたが、ここ数週間で、イタリア出身のアンドレア・エンリア欧州銀行監督機構（EBA）議長を支持する声が拡大。7日午後に行われるECB理事会の無記名投票は、両者の接戦になる見通しという。

単一監督メカニズムは、欧州債務危機を受けて4年前に設立。ユーロ圏の大手銀行118行を監督している。ドナリー、エンリア両氏とも、高い資質を備えているとの見方が多いが、ドナリー氏はECBで銀行の不良債権削減を中心にあって進めてきた人物。このため、不良債権の多いイタリア、ギリシャなど南欧諸国からは、一段の不良債権削減で自国銀行が増資を迫られ、株価下落で買収の標的になるのではないかと懸念の声が出ている。

関係筋によると、多くの南欧諸国はドナリー氏のトップ就任に反対している。エンリア氏はイタリアの政界から独立した人物とみられており、北部諸国の票が割れる可能性があるという。

ECBの報道官はコメントを控えている。

単一監督メカニズムのトップは、現在ダニエル・ヌイ委員長が務めている。新委員長は来年1月に就任する予定。（ロイター 2018/11/5より）

ECB次期総裁、最有力は前フィンランド中銀総裁リイカネン氏－調査

ユーロ圏の北部と南部が主導権を争う中で、フィンランド中央銀行のリイカネン前総裁は、欧州中央銀行（ECB）の次期総裁となるのにちょうどいい条件を備えていると言えそうだ。

2019年11月に誰がドラギ総裁の後任に就任するかを予想するブルームバーグのエコノミスト調査で、リイカネン氏が新たな最有力候補となった。ECBが金融緩和の解除に向けて準備する中で、同氏の最大のセールスポイントは妥協のたまもの候補であることかもしれない。

次期ECB総裁は、危機時の刺激策を終了したいドイツなどの要求と、金融支援がなければ経済が打撃を受けると心配するイタリアなどの要求の間で、バランスを取る必要がある。マラソンランナーでクロスカントリースキーもこなすリイカネン氏は、長丁場となる仕事をやり遂げるのにぴったりの人物かもしれない。

マンデータム・ライフの投資ソリューション責任者、ローリ・ベイティネン氏（ヘルシンキ在勤）は「ユーロ圏北部と南部の対立を踏まえると、リイカネン氏は良い選択なのではないか。同氏はECBのいずれの非伝統的措置についても極端なスタンスを取ったことがない。極めて良い候補だ」と指摘した。

（ブルームバーグ 2018/9/6より）

コラム：ECBの執行部交代、重要なのは次期首席エコノミスト

欧州中央銀行（ECB）は執行部の要職が年内に次々と任期満了を迎えて後継者選びが行われるが、最も重要なのはドラギ総裁の交代ではないかもしれない。総裁の後継候補のほとんどは、ユーロ解体など実際の課題に対応する上でドラギ氏のような創造性を欠いている。一方、次期首席エコノミスト候補の先頭を走り、自由な発想力を持つアイルランド中銀総裁のフィリップ・レーン氏は、新ポストで大きな影響力を手に入れ、特に次の景気悪化局面で力を発揮しそうだ。

10月末に任期を終えるドラギ総裁が退任すると執行部に大きな穴が開く。次期総裁候補にはフランソワ・ビルロワドガロー氏（フランス）、エルッキ・リーカネン氏、オッリ・レーン氏（共にフィンランド）、クラス・クノット氏（オランダ）などの名前

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライト・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。

が挙がっている。このほかクーレ専務理事（フランス）とドイツ連銀のワイトマン総裁も候補として取りざたされているが、ECBの規則でクーレ氏の立候補は禁止されており、ワイトマン氏はドラギ氏との対立が激し過ぎたとも言える。

加えて、次期総裁選では過去の実績が決め手にならない。総裁選を巡るユーロ圏諸国の駆け引きは、欧州委員会の次期委員長など他の要職選と不可分に結び付いている。また、ドラギ氏の後継候補はいずれも立派な政策立案者だが、発想力という点ではドラギ氏に見劣りする。

首席エコノミストにレーン氏を選ぶ意味合いはこの点にある。レーン氏は学術界での経験を持ち、欧州連合（EU）加盟国のソブリン債を裏付けとするユーロ圏共同債（ESB）の創設を支えた。銀行と各国政府の間の悪循環を断ち切ることを狙いとするESBは、難点を抱えているとはいえ、ユーロ圏経済がどうしても避けられない景気減速に直面した場合には、有用な創意工夫がうかがえる。

ユーロ圏の政策金利は依然マイナス圏で、上昇は緩やかなペースにとどまる公算が大きく、次に政策対応が必要になった際の利下げ余地はない。債券の買い入れ拡大や長期の貸し出しも効果は見込めない。しかしレーン氏なら景気をてこ入れする妙案をひねり出すことができそうだ。レーン氏が次期総裁候補のダークホースに浮上しなければ、ECBの執行部交代は総裁よりも首席エコノミストの方が注目度が高そうだ。

（ロイター 2019/1/4 より）

次期ECB総裁にワイトマン氏の芽、復活も – 後押しする2つの出来事

ワイトマン・ドイツ連邦銀行総裁は欧州中央銀行（ECB）のドラギ総裁の後継レースで一度は順位を下げたが、復活する可能性がある。同氏を後押しするような出来事が最近2つあった。

第一に、ドイツ政府は先週、プラート理事の後任となるECBチーフエコノミストの候補を自国から推薦しなかった。これはワイトマン氏を総裁候補に推す可能性をはっきりと分かるように残したものだ。**チーフエコノミストには対立候補なしでレーン・アイルランド中銀総裁が事実上内定した。**

また、かねて独連銀出身のECB総裁就任に難色を示してきたイタリアで雪解けの兆候がある。トリア財務相は独紙ウェルトとのインタビューでワイトマン氏が次期ECB総裁となる可能性について「オープン」で「先入観はない」と発言した。

アルビン・キャピタル・マネジメントの最高投資責任者（CIO）スティーブン・アイザック氏は4日、ブルームバーグテレビジョンとのインタビューで、「誰が後継総裁になるかは当社が欧州の金融政策を見る上で最重要のプリズムだ」と述べた。

ワイトマン氏が量的緩和（QE）に反対の姿勢を貫いてきたことから、同氏が総裁になれば将来の景気刺激策の妨げになることを懸念する声がある。

イタリアの出身のドラギ総裁の後継者は北部の諸国からとの思惑もあるが、**誰になるかは欧州委員長など欧州連合（EU）内の他のポジションとの兼ね合い次第だろう。5月の欧州議会選挙後のある時点で決まる見込みだ。**

（ブルームバーグ 2019/2/5 より）

伊経済相、ワイトマン氏のECB次期総裁就任に反感示さず

イタリアのトリア経済・財務相は23日、欧州中央銀行（ECB）の次期総裁としてドイツ連邦銀行（中央銀行）のワイトマン総裁が指名される可能性について、過去のスタンスに影響されるべきではないとして、反対の姿勢を示さなかった。

イタリア与党「同盟」幹部のクラウディオ・ボルギ氏は昨年7月、ワイトマン総裁がECB次期総裁となることに反対する考えを示し、ワイトマン氏の総裁就任は欧州の分裂につながりかねないと警告していた。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライツ・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。

トリア氏は、世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）の合間にワイトマン氏の立候補に関して尋ねられ、「世界は変化しており、関係者の考えも変わるため、過去のスタンスを重視することに意味はない」と言及。一方で、ECB 総裁の後任について話し合うのは時期尚早との見方も示した。

（ロイター 2019/1/24 より）

欧州の国際機関・国際金融機関等の代表・総裁

欧州機関	総裁名	出身国	就任	前職
欧州投資銀行 (EIB)	ヴェルナー・ホイヤー	ドイツ	2012年～(2018年：継続中)	ドイツの政治家 (FDP)。
欧州投資基金(EIF)	ピエール・ルイジ・ジルベール	イタリア	2014年～	イタリア商業銀行エコノミストから EU、EIB。
欧州安定化基金 (ESM)	クラウス・レグリング	ドイツ	2012年～	ドイツ財務省、IMFでエコノミスト
欧州復興開発銀行 (EBRD)	スマ・チャクラバルティ	イギリス	2012年～、2016年～(2期目)4年任期	イギリスの閣僚(海外支援、法務相)
単一破綻処理委員会 (SRB)	エルク・コーニグ	ドイツ	2015年～2022年	ドイツ金融庁長官、女性
欧州システミックリスク理事会(ESRB)	マリオ・ドラギ	イタリア		ECB 総裁が兼任
単一監督メカニズム (SSM)	ダニエレ・ノイ	フランス	2014年～2019年12月	仏ブルーデンス監督・破綻処理庁事務総長、女性
欧州銀行監督機構 (EBA)	アンドレア・エンリア	イタリア	2011年～2021年	イタリア中銀銀行監督局長
欧州議会・経済金融委員会 (ECON)	ロベルト・ガルティエリ	イタリア	2014年～2019年	イタリアの政治家、現職欧州議会議員
欧州証券市場監督局 (ESMA)	スティーブン・マイオール	オランダ	2011年～	オランダ金融監督局理事
欧州保険・年金監督局 (EIOPA)	ガブリエル・ベルナルディーノ	ポルトガル	2011年～2021年	組織の前身 (CEIOPS) の理事長
国際通貨基金 (IMF)	クリスチン・レガルド	フランス	2011年～	フランス財務相、女性
欧州委員会委員長	ジャン＝クロード・ユンケル	ルクセンブルグ	2014年～2019年10月	ルクセンブルグ首相
欧州議会議長	アントニオ・タイヤーニ	イタリア	2017年1月17日～2019年7月	欧州議会議員、伊内閣交通担当委員、産業・企業委員
欧州理事会議長	ドナルド・トゥスク	ポーランド	2014年～2019年11月	元ポーランド首相

小ネタ

ユーロ紙幣には、ECB 総裁のサインが印刷されています。日本の紙幣には日本銀行総裁の印が捺印され総裁自身のサインはありません。以前、前 ECB 総裁のトリシェ氏が来日した際、パーティーの出席者に自分のサインが入ったユーロ紙幣を見せていました。今度皆さんもユーロ紙幣を手にする機会があった時には、確認してみましょう。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライツ・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。